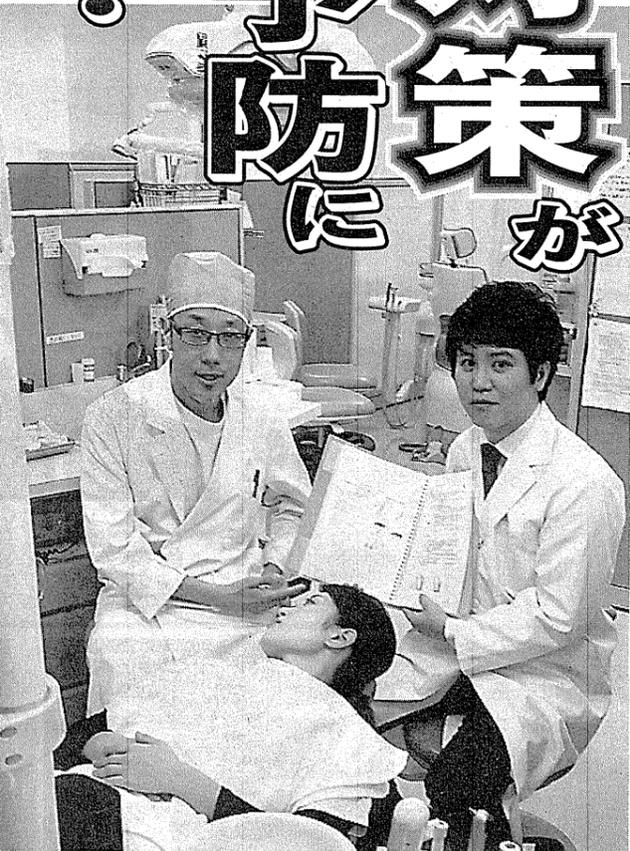


歯周病対策が 肝臓がん予防に つながる?



歯周病治療が、命を落とす重大病回避につながる可能性があることが改めて明らかになった。研究にかかわった横浜市立大学付属病院肝胆膵消化器病学・結束貴臣医師(写真右)と、神奈川県立大学付属横浜研修センター横浜クリニック高度先進口腔医学講座・鎌田要平歯科医師(同左)に話を聞いた。

非アルコール性脂肪肝炎との関係が明らかに

40歳以上の8割がかかっている歯周病が、歯がボロボロになっていると、歯肉の隙間にたまった歯垢の細菌が、歯肉を傷つけ、歯肉炎(歯肉の腫れ)や歯槽膿漏(歯肉の穴から膿が出る)を引き起こす。歯肉炎は、歯肉の炎症で、歯肉が腫れ、出血し、歯肉の隙間に膿がたまり、歯肉の穴から膿が出る。歯肉炎は、歯肉の炎症で、歯肉が腫れ、出血し、歯肉の隙間に膿がたまり、歯肉の穴から膿が出る。

歯垢除去などで肝機能の数値が低下

「肝機能の数値が改善し、肝臓の炎症が治る」と、歯周病が肝臓の炎症を引き起こすという仮説が、歯垢除去などの治療によって検証された。歯垢除去などの治療によって、肝機能の数値が低下し、肝臓の炎症が治るという仮説が、歯垢除去などの治療によって検証された。

歯周病がナッシュユにどう関係しているか、これまでも多くの医師も考えていなかった。ナッシュユ(ナッシュ)もたいてい、結核菌が腸内に存在している体に悪さをすると倍高かったという。細菌が血管を介して肝臓に回り、肝臓を引き起こすのと、歯周病がナッシュユにどう関係しているか、これまでも多くの医師も考えていなかった。ナッシュユ(ナッシュ)もたいてい、結核菌が腸内に存在している体に悪さをすると倍高かったという。細菌が血管を介して肝臓に回り、肝臓を引き起こすのと、歯周病がナッシュユにどう関係しているか、これまでも多くの医師も考えていなかった。

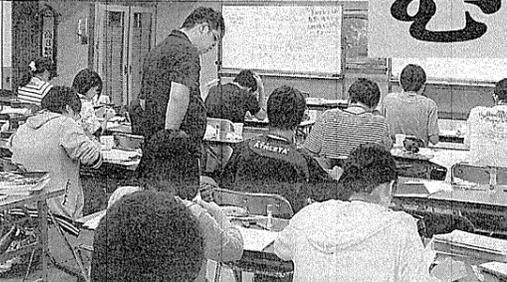
怖い薬の飲み合わせ
睡眠薬は人間にとって3大欲求の一つであり、欠かせないものです。ただ、睡眠障害に悩んでいる人はたくさんいて、睡眠薬が活用されず、苦しんでいる人がたくさんいます。

睡眠薬で副作用を起こす薬剤は多い
睡眠薬(ベンゾジアゼピン系)は特定の酵素によって代謝されます。しかし、先に挙げたアゾール系抗真菌薬、シメチジン、マクロライド系抗生物質は、「睡眠薬の代謝に関わる酵素」の働きを阻害する作用があります。つまり、睡眠薬がなかなか代謝・分解されにくくなるため、血液中での睡眠薬の濃度が上昇して薬の作用が強くなり、副作用が表れやすくなるのです。



脳を育てれば健康になれる

小さいころ、親から次々と発表されている「ほら! ポーツとして...」というから驚きだ。ワシントン大学のレイ・シンクロン氏と、重要な役割を果たしている。心療内科の吉田たか重は、脳がボーツとして、脳の発達に重要な役割を果たしている。心療内科の吉田たか重は、脳がボーツとして、脳の発達に重要な役割を果たしている。



ボーツとする時間が天才を生む
「ボーツ」として、脳の発達に重要な役割を果たしている。心療内科の吉田たか重は、脳がボーツとして、脳の発達に重要な役割を果たしている。心療内科の吉田たか重は、脳がボーツとして、脳の発達に重要な役割を果たしている。

「歩きスマホ」トラブルで152人が救急搬送

「歩きスマホ」トラブルで152人が救急搬送
前を歩いている人が遅すぎる...と思っただけで、スマホを見ながら歩いているという経験がある人は多いだろう。歩きスマホをしていて、歩道から転落したり、他人と衝突するトラブルが増えている。最近では「歩きスマホ」の危険性が広く知られているが、まだまだ浸透していない。

知らず知らずのうちに損!
歩きスマホの危険性について、多くの人に知らせてあげたい。歩きスマホは、歩道の安全を脅かすだけでなく、自分自身の安全も脅かす。歩きスマホを控えることが、自分と周囲の安全を守る唯一の方法だ。